

序文



ガイドラインは診断と治療の方向性を指し示す羅針盤であり、疾患概念や病態に関する最新知見を表示した案内板です。駆け出しの若手にとっても、先導者たるベテランにとっても、権威ある“道しるべ”となります。

本書は5年ぶりとなるガイドライン特集です。レベルの高いエビデンスに基づく質の高い情報を、なにより簡潔にまとめていただくことに努めました。ガイドライン活用のポイントと注意点について述べた「ダイジェスト解説」と、今後の展望と改訂についてまとめた「プロGRESS」の二本立て構成です。

「ダイジェスト解説」では、学会等が公表しているガイドラインや指針に準拠しながら、その領域の専門家の先生方に最新の診断・治療アルゴリズムについて解説していただきました。根拠となる出典についても、各章の最後に「ガイドライン情報」として紹介しています。

どの疾患・病態においても、たとえ専門家の間でも、満場一致の見解が得られることはまずありません。常に議論が繰り返され“事実”が刷新されています。ガイドラインは鵜呑みにするものではなく、使用する者が自身のおかれた医療環境を十分に考慮して“解釈”すべきものです。同じガイドラインでも、施設によって、担当医によって、異なる利用法があってしかるべきです。これらの点をふまえて「ダイジェスト解説」を読み解いていただきたいと思います。

ガイドラインが提示する標準的な医療と理想的な医療の間には、常にギャップがあります。目指す医療は、ガイドラインのそのまた先に見えてくるものではないでしょうか。だからこそ、ガイドラインは数年ごとに改訂される運命にあります。本書の「プロGRESS」には、専門家の視点で捉えた将来像が記されています。

しばらくは本書をお手元に置いて、理想の医療へと続く長い道程の“一里塚”としてご活用いただければ幸いです。

「小児科」編集者一同